ウナギの産卵場所はどこ？

ウナギは年間８万トン以上も食用になり、大変よく知られた魚です。大部分が養殖ですが、天然のウナギも川でとれます。北海道南部より南の日本各地、国外では、朝鮮半島、中国等の川にすみますが、産卵は川ではなく、海で行われます。いったい広い海のどこなのでしょうか。

ウナギの産卵場所

ウナギの産卵場所は、東京から3,000kmも離れている太平洋、つまりフィリピンの東であることが最近の研究で分かってきました（図１の星印）。では、卵からかえったウナギの稚魚（ちぎょ）は、どのように日本にやってくるのでしょうか。

卵からかえったウナギは、柳の葉のような形をしています（図２：レプトケファルス幼生と言います）。このような弱々しい姿の幼生（ようせい）が、何千キロメートルも離れた日本まで自分で泳いでたどりつくのはとうてい無理と思われます。幼生は、海中を漂うには都合のよい形をしているので、幼生は海流に乗りながら日本にやってくると考えられています。太平洋で生まれたウナギの幼生は、フィリピンへ向かう北赤道海流から日本へ向かって流れる黒潮へ乗り移り日本の近くまでやってきます（図１）。

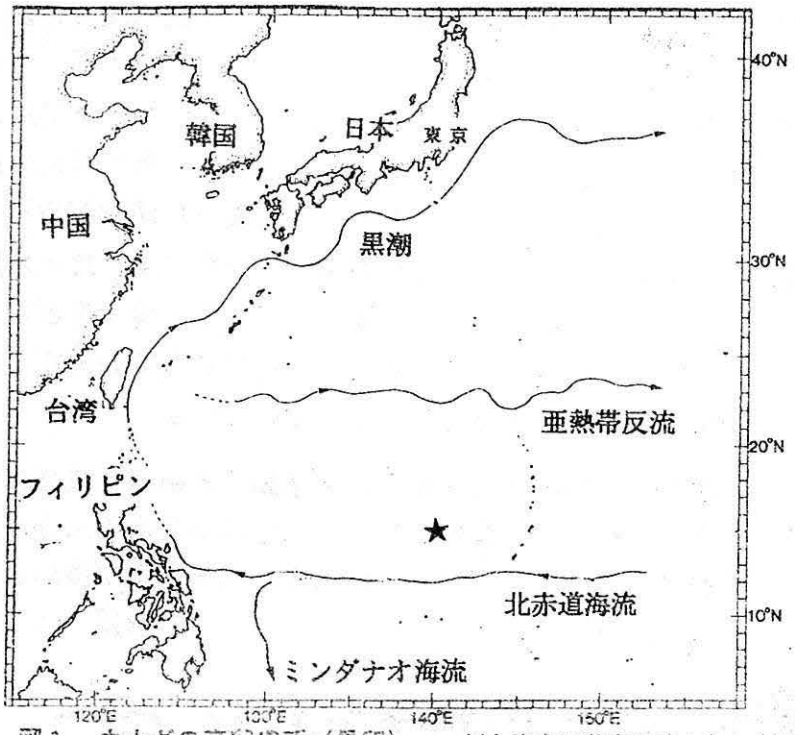

図１　ウナギの産卵場所（星印）　　川と海を回遊する淡水魚（東海大学出版会発行）の「ウナギの大回遊の成立（塚本勝巳著）」より作図－

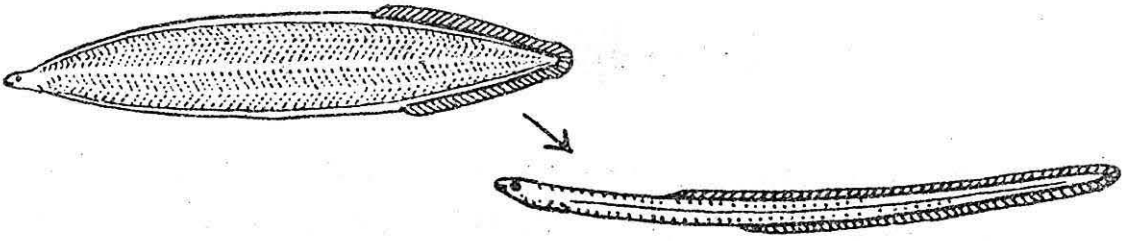

図２　レプトケファルス幼生（上）とシラスウナギ（下）　平凡社の世界大百科辞典より

しかし、黒潮に乗ったままでは、そのまま太平洋に流されてしまうことになり、日本の川にたどりつくことはできません。実は、日本の近くまでやってきて全長６ｃｍほどの体つきのしっかりした自力で泳げるウナギ（図２：シラスウナギと呼ばれています）になります。日本の川へだどりつくには、海中を漂うのに適した幼生から、泳ぐのに適した体に変わること（変態（へんたい）といいます）が必要なのです。しかも、この変態の時期が合わないと、そのまま海流に流されてしまうことにもなります。日本の近くに来た時に変態するというタイミングも合わなければならないのです。

よくわかっていない産卵場所への移動

日本の川や池へやってきたウナギは、他の魚や貝などを食べ成長します。５～１２年間を日本で過ごし、体長が４０～８０ｃｍのウナギに成長すると再び産卵場所へ旅立ちます。しかし、どのように産卵場所までたどりつくかは、まだまったく分かっていません。海流をうまく乗り越えて産卵場所にたどりつくのかもしれませんが、太平洋で生まれた幼生がやってきたのと同じ道筋を海流にさからってもどるのは大変そうです。たとえ産卵場所の近くまで行くことができても、広い海の中で特定の場所をどのように見つけるのでしょうか。サケは生まれた川の臭いを覚えていますが、ウナギも生まれた場所の海の臭いを覚えているのでしょうか。

世界には、１５種類のウナギの仲間が知られ、移動の距離はさまざまですが、全ての種類が川で成長し海で産卵します。生育場所である川と産卵場所である海を、海流にのり正確に移動する仕組みにはまだ謎が多いと言えます。

（南部　久男）

富山市科学文化センター
〒939富山市西中野町1-8-31　TEL(0764)91-2123

平成７年１２月１日